

# I 普及奨励事項

## 1 秋期散布による腐らん病防除（環境部）

### 1 背景と特徴

リンゴの腐らん病は、通年発生する病害で、しかも発病する部位が樹幹であるため、防除はきわめて困難である。

従来、感染防止のためにとられている防除手段としては、休眠期および生育期に有効な殺菌剤を散布する方法がある。しかしながら、本病の発生期間は周年に及ぶため、十分な防除効果を上げるまでに至っておらず、より有効な感染防止の手段を確立することが強く要請されている。

病原胞子の飛散量、感染条件などから推定し、秋期感染が多いものと想定し、トップジンM水和剤の秋期散布を行って次年度の防除効果を検討した。

その結果、高い防除効果が得られたので腐らん病総合防除法の一手段として紹介し、普及奨励したい。

### 2 技術内容

10月中～下旬にトップジンM水和剤1,500倍を散布する。

### 3 普及上の留意点

果台や剪定痕は侵入門戸になりやすいので薬剤が十分かかるよう、温暖な日を選んで、できるだけ動噴を用いて散布することが望ましい。

### 4 試験成績の概要

(1) 試験課題名 リンゴ腐らん病の総合防除法

(2) 試験年次 昭和52年度

(3) 試験方法

試験場所 岩手郡岩手町一方井

試験規模 成木を供試、1区11～16樹（品種混在）

供試薬剤と濃度 トップジンM水和剤 1,500倍

散布 9月～11月までの期間、各月1回のみ散布する区を設け、秋末には各区に石灰硫黄合剤（結晶）30倍を散布した。なお、翌春の発芽前散布は一切行わず、芽出し以降は慣行の防除とした。

散布方法と散布濃度 動噴を用いて10a当り500ℓ宛散布

調査 枝ふらの発生数を発見次第剪除し、供試樹毎に剪去数（枝ふらん数）を記録して、月末に集計し、月間の発生量とした。

(4) 主要成果の具体的データ

散布時期と月別の枝ふらん発生

| 処理区別<br>散布時期           | 月別の1樹当り枝ふらん発生数(本) |      |      |      |    |    | 計    |
|------------------------|-------------------|------|------|------|----|----|------|
|                        | 3月                | 4月   | 5月   | 6月   | 7月 | 8月 |      |
| 9月中旬                   | 0.63              | 1.36 | 0.09 | 1.45 | 0  | 0  | 3.53 |
| 10月中旬                  | 0.63              | 2.00 | 0.45 | 1.54 | 0  | 0  | 4.62 |
| 11月上旬                  | 0.85              | 2.64 | 0.50 | 0.85 | 0  | 0  | 4.84 |
| 11月下旬(対照) <sup>※</sup> | 1.25              | 3.50 | 0.43 | 1.68 | 0  | 0  | 6.86 |
| 無散布                    | 0.40              | 4.60 | 1.60 | 1.60 | 0  | 0  | 8.20 |

※対照区の薬剤は石灰硫黄合剤(結晶)30倍

試験結果

トップジンM水和剤による秋期散布の効果は高い。防除時期としては、作業の容易さなどから考え、実的には、中生種の収穫が終る10月中～下旬に散布する。